

小シンポジウム（1～6）

小シンポジウムの時間は、すべて 13:30～17:00 です。

小シンポジウム 1 ————— 文学部校舎 1階 第1・2講義室

「日本の西洋古代史研究：回顧と展望

—独自性と国際性、貢献をめぐる—」

趣旨説明：南川高志（京都大学教授）

報告1：佐藤 昇（神戸大学准教授）

「日本における古代ギリシア史研究の現在」

報告2：高橋亮介（川村学園女子大学講師）

「日本における古代ローマ史研究の現在」

報告3：藤井 崇（京都大学助教）

「欧米からみた日本の西洋古代史研究」

報告4：長谷川岳男（鎌倉女子大学教授）

「西洋古代史研究の貢献」

コメント：南雲泰輔（日本学術振興会特別研究員）

「これからの「日本の」西洋古代史研究」

小シンポジウム 2 ————— 文学部校舎2階 第3講義室

「中世ヨーロッパにおける政治的コミュニケーションと秩序

— 境界地域から — 」

趣旨説明：服部良久(京都大学教授)

報告1：朝治啓三(関西大学教授)

「1259年パリ条約以後王子エドワードのボルドー政策

—領有者プランタジネット家と都市コミュニンのコミュニケーション—」

報告2：松本 涼(日本学術振興会特別研究員)

「13世紀アイスランド社会とノルウェー王権 —忠誠と反逆の狭間で—」

報告3：高田良太(駒澤大学講師)

「13、14世紀クレタにおけるヴェネツィア支配とギリシア人

—「反乱」時代の秩序形成—」

報告4：藤井真生(静岡大学准教授)

「中世後期チェコにおける貴族共同体と「外国人」」

小シンポジウム 3——百周年時計台記念館 2階 国際交流ホール I
「近世ヨーロッパにおける礫岩国家 —複合する政体、集塊する地域—」

問題提起：近藤和彦（立正大学教授）

「問題提起 —礫岩国家と普遍君主—」

報告1：古谷大輔（大阪大学准教授）

「礫岩国家スウェーデンと多様な地域集塊の論理

—スコーネ地方の併合にみる「バルト海帝国」の形成プロセス—」

報告2：後藤はる美（東洋大学講師）

「「君主のいない共和国」と礫岩国家

—17世紀イングランド・スコットランドの法の合同論をめぐって—」

報告3：中澤達哉（福井大学准教授）

「ハプスブルク帝国の礫岩国家編成と集塊理論

—非常事態への対応：服属地域ハンガリー王国からの正統化—」

報告4：中本 香（大阪大学准教授）

「王朝の交代と礫岩国家スペインの変質

—「新組織王令」にみるブルボン朝スペインの統治理念と実態—」

コメント：内村俊太（上智大学助教）

「近世スペインにおける歴史意識研究の立場から見た礫岩国家研究」

コメント：渋谷 聡（島根大学教授）

「近世神聖ローマ帝国研究の立場から見た複合国家研究」

小シンポジウム 4——百周年時計台記念館 2階 国際交流ホール II

「ヨーロッパ近代のなかのカトリシズム

—宗教を通して見るもうひとつの「近代」—

趣旨説明：中野智世（京都産業大学准教授）

報告1：前田更子（明治大学講師）

「公教育のなかの宗教 —19世紀フランスにおける女性教員の養成をめぐって—」

報告2：尾崎修治（上智大学非常勤講師）

「19世紀末ドイツのカトリック労働運動 —階級と信仰のあいだで—」

報告3：渡邊千秋（青山学院大学教授）

「20世紀前半スペインにおけるカトリック的集合心性を考える

—青年平信徒のプロソポグラフィから—」

コメント1：村上信一郎（神戸市外国語大学教授）

「イタリアにおける国家教会関係史研究とカトリック運動史研究の視点から」

コメント2：深沢克己（東京大学教授）

「「世俗化」史観の再検討 —フランス近世史からの眺望—」

小シンポジウム 5——百周年時計台記念館2階 国際交流ホール III

「市民の自分史 —前世紀転換期から戦間期のエゴドキュメント—」

趣旨説明：榎原 茂（島根大学教授）

報告1：長田浩彰（広島大学教授）

「境界に立つ市民としての矜持と限界

—ユダヤ人家族を持ったアリア人作家ヨッヘン・クレッパ（1903-1942）—

報告2：長井伸仁（上智大学准教授）

「世紀転換期フランスにおける聖職者の市民意識と自分史

—ピエール・ダブリ（1864-1916）—

報告3：寺田由美（北九州市立大学准教授）

「20世紀初頭アメリカ合衆国における女性労働者の組織化

—ローズ・シュナイダーマン（1872-1972）のシティズンシップ観—

報告4：榎原 茂（島根大学教授）

「「農民」と「市民」のあいだ

—ブルボネの農民、ジュール・ルージュロン（1861-1945）と共同性—

コメント1：松井康浩（九州大学教授）

「ソ連史の立場から」

コメント2：小田中直樹（東北大学教授）

「「市民の自分史」と歴史学の方法」

「第一次世界大戦再考」

趣旨説明：小関 隆（京都大学准教授）

報告1：山室信一（京都大学教授）

「「世界性」認識と学知の転回」

報告2：藤原辰史（京都大学准教授）

「総力戦を生きのびる」

報告3：岡田暁生（京都大学教授）

「第一次世界大戦と「芸術」の変容」

報告4：野村真理（金沢大学教授）

「「未完の戦争」東部戦線によせて」

コメント1：中野耕太郎（大阪大学准教授）

「アメリカ史の視点から」

コメント2：林田敏子（摂南大学准教授）

「ジェンダーの視点から」